

大阪市立東中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

校区は、旧東区全域と広く、住居は主に校区東側に多い。また、校区には、タワーマンション等が建設され、校区4小学校はいずれも児童数増のため校舎増築を終えたところであり、本校も生徒数急増の時期を迎え、3年に及ぶ工事を終えた新校舎を3月に引き渡されたところである。生徒は全体的に落ち着いた状況の中で学校生活を送り、コロナ禍で制限はあったものの、創意工夫して教育活動に取り組み、学力・体力の面では各種調査でしっかりとした結果を記録している。

しかし、近年、保護者の価値観が多様化するとともに、生活指導面では、より一層きめ細かな対応及び関係諸機関との連携が求められている。たとえば、本校に通学する生徒の家庭環境をみると、比較的裕福な家庭が多いが、中には基本的な生活習慣を身につけることができず、遅刻・欠席を繰り返すケースや宿題など課題の提出日を守れない生徒も見受けられる。また、ヤングケアラーと自認する生徒も在籍する。一方で、コロナ禍の影響もあり、休みがちになる生徒の増加が危惧されるところである。

いずれにしても、一人ひとりの生徒が自尊感情を高め、豊かな心の育成を通して、自分に自信と誇りをもち、進路決定に導くことが求められる。また、昨年度、校内に開設した「HER（東エンパワメントルーム）」、今年度設置された「通級指導教室」などの運用を軌道に乗せることが求められる。そのためにも、スクールカウンセラー、こども相談センター、区役所子育て支援室などの関係諸機関とも連携を密にし、個に応じた指導に努めていく必要がある。

しかしながら、生徒指導主事を始め学級担任においては、日々の教育活動に忙殺され、時間的な余裕がなく根本的な解決には至っていないケースもあり、働き方改革と並行して課題解決に向けて進めなければならない。

【安全・安心な教育の推進】**全市共通中期目標**

1. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を88%以上にする。
2. 令和7年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和3年度より減少させる。
3. 令和7年度末の校内調査において、令和3年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)

- 1 出席日数の増(学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む)
- 2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

学校園の中期目標

1. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を67%以上にする。
2. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、

最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 66%以上にする。

3. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 43%以上にする。
4. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路相談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 50%以上にする。
5. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 65%以上にする。
6. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 60%以上にする。
7. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 42%以上にする。
8. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事や PTA 活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 33%以上にする。また、令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「学校行事や PTA 活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 58%以上にする。
9. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 68%以上にする。
10. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 22%以上にする。
11. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 78%にする。
12. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 53%以上にする。
13. 令和 7 年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 63%以上にする。
14. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 63%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通中期目標

1. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を 53%以上にする。
2. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.04 ポイント向上させる。

3. 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 63% 以上にする。
4. 令和 7 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を 56% 以上にする。

学校園の中期目標

1. 令和 7 年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 49% 以上にする。
2. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 73% 以上にする。
3. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 28% 以上にする。
4. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 53% 以上にする。
5. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 73% 以上にする。
6. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 58% 以上にする。
7. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 68% 以上にする。
8. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 68% 以上にする。
9. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 72% 以上にする。
10. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 42% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通中期目標

1. ICT の活用に関する目標を設定する。
 - ・ 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 73% 以上にする。

- ・令和7年度の学校生活アンケートにおける「インターネットや SNS を正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 72%以上にする。
 - ・令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策として ICT を活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 72%以上にする。
 - ・令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 59%以上にする。
2. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
- ・4～11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準2）を満たす教員の割合を 35%以上にする。
 - ・教員の時間外勤務時間について、45h 未満…Lv0、45h～60h…Lv1、60h～80h…Lv2、80h～100h…Lv3、100h 以上…Lv4 と設定し、令和7年度の4月～11月までの8か月間の時間外勤務時間において、教員全体で Lv4 を 0 回にするとともに Lv3 と Lv4 の合計の割合を 18%以下にする

【その他】

学校園の中期目標

1. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 55%にする。
2. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 45%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

1. 令和5年度のに学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を 86%以上にする。
2. 令和5年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
3. 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
 - ※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握
 - ※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）
 - 1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をするることによる出席認定含む）
 - 2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
 - 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

学校園の年度目標

1. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。
2. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を64%以上にする。
3. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする。
4. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を48%以上にする。
5. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を63%以上にする。
6. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を59%以上にする。
7. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を40%以上にする。
8. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を31%以上にする。また、令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を56%以上にする。
9. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を66%以上にする。
10. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を20%以上にする。
11. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を76%にする。
12. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。
13. 令和5年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。
14. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

1. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分

の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を 51%以上にする。

2. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
3. 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 61%以上にする。
4. 令和 5 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を 54%以上にする。

学校園の年度目標

1. 令和 5 年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 47%以上にする。
2. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にする。
3. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 26%以上にする。
4. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 51%以上にする。
5. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にする。
6. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 56%以上にする。
7. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 66%以上にする。
8. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 66%以上にする。
9. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 70%以上にする。
10. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 40%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

1. ICT の活用に関する目標を設定する。

- ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。
- ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策としてICTを活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。
- ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を57%以上にする。

2. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。

- ・4～11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準2）を満たす教員の割合を30%以上にする。
- ・令和7年度の4月～11月までの8か月間の時間外勤務時間において、教員全体でLv4の割合を前年度より半減させるとともにLv2以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やす。

学校園の年度目標

1. ゆとりの日を月1回程度設定し、この日の時間外勤務時間を可能な限り減らす。

【その他】

学校園の年度目標

1. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を51%以上にする。
2. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を41%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

1. 令和5年度のに学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を86%以上の目標に対し、85%となった。
2. 令和5年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる目標について、前年度8.0%に対し、今年度も8.0%とほぼ変わらなかった。

3. 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる目標について、昨年度 51.7%に対し、今年度 57.6%と改善した。

※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。

※ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)

- 1 出席日数の増(学校内外でICT等を活用した学習活動をする事による出席認定含む)
- 2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

学校園の年度目標

1. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする目標に対し、66%の結果になった。
2. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を64%以上にする目標に対し、66%の結果になった。
3. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする目標に対し33%の結果になった。
4. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を48%以上にする目標に対し、45%の結果になった。
5. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を63%以上にする目標に対し、70%の結果になった。
6. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を59%以上にする目標に対し、57%の結果になった。
7. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を40%以上にする目標に対し、36%の結果になった。
8. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を31%以上にする目標に対し、28%の結果になった。また、令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を56%以上にする目標に対し、64%の結果になった。

9. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を66%以上にする目標に対し、55%の結果になった。
10. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を20%以上にする目標に対し、18%の結果になった。
11. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を76%にする目標に対し、85%の結果になった。
12. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さ感じることができた」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする目標に対し、52%の結果になった。
13. 令和5年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする目標に対し、53%の結果になった。
14. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする目標に対し、63%の結果になった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

1. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を51%以上にする目標に対し、43%の結果になった。
2. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる目標に対し、2年生は0.01ポイントの増加、3年生は0.03ポイントの減少となった。
3. 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を61%以上にする目標に対し、76%の結果になった。
4. 令和5年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」について、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を54%以上にする目標に対し、57.5%の結果になった。

学校園の年度目標

1. 令和5年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を47%以上にする目標に対し、英数国三教科の平均が53.3%という結果になった。
2. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする目標に対し、59%の結果になった。

3. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を26%以上にする目標に対し、36%の結果になった。
4. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする目標に対し、55%の結果になった。
5. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする目標に対し、62%の結果になった。
6. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を56%以上にする目標に対し、66%の結果となった。
7. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を66%以上にする目標に対し、69%の結果となった。
8. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする目標に対し、64%の結果になった。
9. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする目標に対し、72%の結果になった。
10. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を40%以上にする目標に対し、45%の結果になった。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

1. ICTの活用に関する目標を設定する。
 - ・ 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする目標に対し、59%の結果になった。
 - ・ 令和5年度の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする目標に対し、72%の結果になった。
 - ・ 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策としてICTを活用している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする目標に対し、69%の結果になった。
 - ・ 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を57%以上にする目標に対し、55%の結果になった。

2. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。

- ・4～11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して(基準2)を満たす教員の割合を30%以上にする目標に対し、46.8%の結果になった。
- ・令和7年度の4月～11月までの8か月間の時間外勤務時間において、教員全体でLv4の割合を前年度より半減させるとともにLv2以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やす目標に対し、すべての月で達成することができた。

学校園の年度目標

1. ゆとりの日を月1回程度設定し、この日の時間外勤務時間を可能な限り減らす目標に対し、毎月1回のゆとりの日を設定することができた。

【その他】

学校園の年度目標

1. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を51%以上にする。目標に対し、54%の結果になった
2. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を41%以上にする目標に対し、56%の結果になった。

【今年度の総括】

今年度の目標に対し、大きく下回った項目が二つあった。一つは、「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」であり、もう一つは、「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」である。それぞれ12ポイントずつ目標を下回る結果となった。

いずれも、肯定的な回答全体を見た場合、一つ目については、100%、二つ目については95%となっている。ここから考えると、教職員の間に、授業改善や、ICT機器の利用について、意識付けはなされている一方で、十分な取り組みができたという自信が持てていない状況が見える。

次年度に向け、この点を改善すべく、授業改善においても、ICT機器の利用に関しても、よりわかりやすく、授業に反映しやすい内容を取り扱った研修を執り行うことが必要だと考えている。こうして、教職員に授業力やICT機器の利用に対して自信を持つことができれば、この項目についての改善が見込めるだけでなく、生徒への還元もまた、期待ができると考えている。

次年度は総合的読解力育成カリキュラムという、新しい取組が始まる。この導入に向けた研修を重ねることが急務であるが、それに合わせ、授業改善やICT機器の利用に関する研修を重ねていきたい。令和5年度の後半には、職員会議毎に、若手教員による伝達研修を盛り込むことができています。多くの教職員が伝達研修を行うことで、研修を受けることに対してより主体的に挑むことができ、東中学校のさらなる発展を見込むことができるものと信じています。

大阪市立東中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を86%以上にする。 令和5年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握 ※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。） <ol style="list-style-type: none"> 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む） ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。 <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を64%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を48%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を63%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を58%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を40%以上にする。 	B

<p>8. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を31%以上にする。また、令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を56%以上にする。</p> <p>9. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を66%以上にする。</p> <p>10. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を20%以上にする。</p> <p>11. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を76%にする。</p> <p>12. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さ感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を50%以上にする。</p> <p>13. 令和4年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。</p> <p>14. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。</p>	
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（教務部）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】（学-7）</p> <p>教科授業だけでなく様々な活動の中で、コミュニケーション活動を取り入れた内容を実施する。また、読書活動を充実させるため、朝読書の習慣化、図書室を利用した授業を実施する。言語力の育成に向け、表現活動や「学び合い」の機会を増やす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校生活アンケートにおいて「読書の習慣が付き、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を全体の40%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおいて「自分の意見をまとめたり、発表する機会がよくある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を昨年度と同等以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校生活アンケートにおいて「読書の習慣が付き、本を読むことが好きになっ 	

た」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 36%で、目標値を 4 ポイント下回った。	
【取組内容】について	
・全学年での朝読書の実施、図書室の利用の推進等を毎年行っている。	
・令和 5 年度の学校生活アンケートにおいて「自分の意見をまとめたり、発表する機会がよくある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 26%で、昨年度と同等であった。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・図書室の利用、学級文庫の取り組みについては、図書委員会を中心に活発に進めている。引き続き、取り組みを進めていく。また、言語活動を取り入れた授業や特別活動など、思考力・判断力・表現力を高める取り組みを展開する。	
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-12)	B
体験的な学習や表現・発表する取り組みを設定し、また、実験・実習を積極的に取り入れるなど生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を実施する。	
指標	
・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 50%以上にする。	
・令和 5 年度の学校生活アンケートにおいて「実験、観察、実習などの授業に、興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を全体の 55%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 52%で、目標値を 2 ポイント上回った。	
【取組内容】について	
・令和 5 年度の学校生活アンケートにおいて「実験、観察、実習などの授業に、興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 54%で、目標値を 1 ポイント下回った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・今後も、引き続き体験的で生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な活動を、授業や校外学習、泊行事などに取り入れていく。	
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】(学-10)	B
地域の施設及び人材活用を積極的に行い、それらを取り入れた学習活動を充実する。	
指標	
・学校元気アップ地域本部事業において、令和 5 年度は P T A や地域・学生等のボランティアの数を 20 名以上集める。	
・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 20%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は18%で、目標値を2ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館開館やテスト前の放課後学習会の実施を例年通り進めている。12月末現在の図書室利用者の延べ人数は昨年度よりも740名ほど増加し、3147名となっている。アンケートの結果、昨年度と比較すると、学校元気アップ事業に参加しているという生徒の意識は少しだけ上がった。 本年度は、学校元気アップ地域本部事業において、12月末までにPTAや地域等のボランティアの数を25名集めることができた。 2学期に8回実施した放課後の保護者に向けての図書室開放では、3名の保護者の参加があった。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> まずは図書室や学習会の利用、そして参加者ボランティアがさらに増えるよう、学校元気アップの活動を積極的に発信していく。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（生活指導部）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】（市－2・3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 主任会、生活指導部会で不登校生については、その対応策について常に議論し具体的な対応策のもとに学年、生活指導部の連携を軸とした組織的対応を心がける。また「不登校対策委員会」をさらに充実させる。 学年ごとに迅速かつ正確に実態把握を行うとともに、情報交換を充実させる。生徒指導主事、学年主任、担任など、常に複数の教職員で実態に沿った課題の解決に向け協議し、決定した内容を確実に遂行する。 課題の解決に向けて、関係諸機関とも積極的に連携をする。 諸会議における不登校生の報告を行う際に、現状のみではなく、現状と対応状況をあわせて報告するよう意識をする。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の学年打ち合わせ、または主任会、生活指導部会において、不登校生徒の状況について報告し具体的な支援、対応策を明確に示し対応にあたる。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を55%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒について、教職員が協力して、組織的に指導に当たれるよう、体制の充実に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を49%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「充実した学校生活を過ごせている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を62%以上にする。 令和5年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】について	
<ul style="list-style-type: none">令和5年度前期の学校生活アンケートにおける「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が71%（目標55%以上）で、後期が77%だった。令和5年度前期の学校生活アンケートにおける「不登校生徒について、教職員が協力して、組織的に指導に当たれるよう、体制の充実に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が67%（目標49%以上）で、後期が68%だった。前年度に比べて、+17ポイントだった。令和5年度前期の学校生活アンケートにおける「充実した学校生活を過ごせている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が63%（目標62%以上）で、後期が62%だった。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
<ul style="list-style-type: none">不登校生への対応については、学校として体制の充実が実現してきているが、不登校生自体は減少した訳ではないため、さらなる検証が必要である。生徒が充実した学校生活を過ごすため、生徒会活動や部活動を通して、自立・自己実現できるよう促していきたい。	
取組内容②【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】（学-2）	C
<ul style="list-style-type: none">学校生活を通じて、日常的に全教職員で集団規律の確立を心がけ、あいさつ・適切な言葉遣い・服装・頭髪等の生徒の規範意識を育む指導を継続的に取り組む。	
指標	
<ul style="list-style-type: none">令和5年度の学校生活アンケートにおける「教職員は共通理解を図り、生徒にきまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を77%以上にする。令和5年度の学校生活アンケートにおける「あいさつ指導や服装・頭髪指導を行うなど、生徒の規範意識の向上をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を77%以上にする。令和5年度の学校生活アンケートにおける「登校指導に少しでも参加するよう努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を65%以上にする。令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を64%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】について	
<ul style="list-style-type: none">令和5年度前期の学校生活アンケートにおける「教職員は共通理解を図り、生徒にきまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が62%（目標77%以上）で、後期が74%だった。令和5年度前期の学校生活アンケートにおける「あいさつ指導や服装・頭髪指導を行うなど、生徒の規範意識の向上をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が76%（目標77%以上）で、後期が72%だった。令和5年度前期の学校生活アンケートにおける「登校指導に少しでも参加するよう努力して	

<p>いる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が71%（目標65%以上）で、後期が64%だった。</p> <p>・令和5年度前期の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が66%（目標64%以上）で、後期も66%だった。</p>	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <p>・「教職員は共通理解を図り、生徒にきまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている」の項目に関しては、部会や職員会議、学年会などを通して、共通理解を図ることができている。</p> <p>・生徒の規範意識の向上や登校指導への参加に関しては、前年度に比べて－5ポイントとなり、目標値も達成できていない。変化する社会に対して、柔軟な校則の運用に努めるとともに、今後も教職員の共通理解を図り、学校として一丸となって指導できる体制を整えていきたい。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】（市－1 学－5）</p> <p>・日常の生徒観察と定期的の実態把握アンケートを実施し、いじめの早期発見に努める。</p> <p>・アンケートを形骸化させないことを心がけ、アンケート結果は全校集会等で生徒に公表し、生徒が相談しやすい環境の構築を図る。</p> <p>・道徳教育を通じて内面的な指導を積極的に行う。</p>	B
<p>指標</p> <p>・教育相談を年2回以上実施する。</p> <p>・東中学校「いじめアンケート」に基づく道徳教育を実施する。</p> <p>・令和5年度の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を86%にする。</p> <p>・令和5年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。</p> <p>・令和5年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>・令和5年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>・教育相談を予定通り行うことができた。</p> <p>・1年生を対象に東中学校独自のアンケートを実施し、結果を返すことで「どんな場合であってもいじめは許されない」という意識を高めることができた。</p> <p>・令和5年度後期の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は85%（目標86%以上）であった。各学年ともに前期より低くなっていることから、「いじめを考える日」で意識したことが、時間がたって薄れてきたと思われる。</p> <p>・令和5年度後期の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は70%（目標71%以上）</p>	

であった。目標を下回っているが、前期の 66% よりも増えている。これは、道徳などを通じて継続的に指導しているためと思われる。	
・令和 5 年度に、学校で認知したいじめは 6 件で、うち 4 件が解消し、2 件が経過観察中である。	
・令和 5 年度に、認知した暴力行為は 0 件である。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・本校は「いじめ事案を予防する環境づくり」については充実した取り組みを実践できていると感じる。ただ、未だに「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」に対して肯定的な回答をする生徒が 100% にはなっていない。この点を考慮し、今後も教育活動にあたりたい。	
取組内容④【基本的な方向 1 安全で安心な教育環境の実現】(学-14)	A
・所轄警察署による交通安全教室を年 1 回以上実施する。	
・全国的に年 2 回実施される「春・秋の交通安全週間」の前後、または各学期末に全校集会等で交通安全についての講話を行い、交通安全や交通ルールを順守する態度を養う。	
指標	
・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えたりするなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 61% 以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・本年度も終業式に東警察交通課より、交通安全の講話をしていただいた。	
・令和 5 年度後期の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えたりするなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 63% (目標 61% 以上) であった。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・令和 5 年後期学校生活アンケート結果では、目標を上回っている。しかし、登下校のマナーの悪さを地域の方から注意されるなど、継続的に講話などを通して、生徒たちに交通ルールやマナーを順守する意識をさせ未然防止を図る必要がある。今後も全校集会での講話、定期的な巡視、リーフレットの配布などの啓発活動に努めたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (健康教育部)	
取組内容①【基本的な方向 1 安全で安心な教育環境の実現】(学-3)	B
防災に関する知識を深め、予防意識を高める。	
指標	
・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 32% 以上にする。	
・避難訓練を年 2 回実施する。全学年防災に関する資料等を使い、災害に対して備える意識を生徒に持たせる。	
・地震に伴う避難訓練では、点呼終了までにかかる時間を、グラウンドへの避難を 6 分	

以内におさめる。 ・火災に伴う避難訓練では、点呼終了までにかかる時間を 5 分 00 秒以内におさめる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・生徒アンケートの結果は、昨年度より + 2 % の 33 % で、目標を 1 % 上回った。 【取組内容】について ・地震に伴う避難訓練において、グラウンドへの避難は 6 分 5 秒だった。 ・ 2 回目の火災に伴う避難訓練は、新校舎からの避難も並行して行い、 4 分 50 秒だった。 ・新しい形の避難訓練だったが、スムーズに避難することができた。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・ 1 回目の避難訓練は、時間内に避難できなかったのも、事前に目標時間を知らせたりなどして、すばやく避難できるように取り組んでいきたい。また、2 回目の避難訓練を事前に生徒へ周知させるのか、事前に消火器の使い方の動画を見せておくのか、検討していきたい。	
取組内容②【基本的な方向 1 安全で安心な教育環境の実現】(学-1) 日常の清掃活動を充実させ、自ら進んで校内美化に取り組む態度を養う。	B
指標 ・月 1 回美化点検を行い、取り組んだ結果を美化委員に確認させる。 ・学期に 1 回清掃用具点検活動を美化委員を中心に行う。 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「美化活動(清掃活動)に、積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 53 % 以上にする。 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「清掃活動は行き届いている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」答える教職員の割合を、50 % 以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・生徒アンケートの結果は昨年度と同じ 52 % で、目標には 1 % 足りなかった。教職員のアンケート結果は、昨年度より +2 % の 51 % で、目標を 1 % 上回った。 【取組内容】について ・美化委員会では、例年通り美化点検を毎月行った。破損点検も、普通教室と特別清掃区域も取り組んだ。さらに、ロッカー点検も各クラスで定期的に行い、教室の美化に努めた。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・生徒に対して清掃活動の大切さを伝え、美化活動を積極的に進めていく。	
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-13) 性教育の系統立てた指導を実施する。	A
指標 ・性について考え、自己の生き方を考える意識の向上をめざすために、各学年 3 ～ 4 時間の授業を実施する。 ・取組後の事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 53 % 以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果は、昨年度より＋１％の５３％で、目標を達成できた。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ２年生では、学年自作のアンケートから始めて、交際についてのトラブル、性被害に遭わないための内容で６月に実施した。３年生では、講師の方に来ていただき、同じく６月に実施した。 １年生は、講師の方に来ていただき、ティーンズヘルスセミナーを１月に実施した。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 単発での指導ではなく、日常的に生徒に話したり、年間通しての指導をしていきたい。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（人権道德委員会）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向２ 豊かな心の育成】（学—１ 学—５）</p> <p>道德の年間指導計画を作成し、授業時数の確保に努める。また、各学年で道德の実践記録を作成し、生徒の課題に応じて適切に授業内容を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 道德の授業時数が、年間で３５時間を越えるように計画し、実践する。 各学年で道德教科書の読み物教材を漏れなく行い、ワークシート・道德ノートを使用し、適切な文章表記による評価を行う。 令和５年度の学校生活アンケートにおける「道德教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を６０％以上にする。 令和５年度の学校生活アンケートにおける「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を６０％以上にする。 令和５年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を６０％以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している。」と最も肯定的に答える生徒の割合は６６％であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン学習の試行などで道德授業を行うなど、当初の年間計画からは変更があるが、各学年で道德の授業時数が年間３５時間を越えるように修正・計画している。 学校生活アンケートにおける「道德教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行っている。」と最も肯定的に答える教職員の割合は５８％であった。 学校生活アンケートにおける「命の大切さや社会のルールについて学んでいる。」と最も肯定的に答える生徒の割合は６８％であった。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「道德教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行っている。」と最も肯定的に答える教職員の 	

割合が目標に到達していない。来年度は達成できるよう、人権道德委員会を中心に各学年の道德授業の時間数確保を積極的に行い、実施計画の修正を図る必要がある。		
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学―1 学―5) 豊かな人権感覚の育成をめざし、人権学習の指導計画を作成する。前後期に集中実践を行い、授業展開を工夫して内容の充実を図る。	A	
指標 ・人権学習の年間指導計画を作成し、前後期に各学年で2回集中実践を行う。 ・体験学習や外部講師の招聘、視聴覚教材の活用等を行う。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「人権教育の推進に努め、生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ教育活動を推進している」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を60%以上にする。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を60%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・学校生活アンケートにおいて「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる。」と最も肯定的に答える生徒の割合は70%であった。 【取組内容】について ・前期の集中実践として各学年で平和学習を行った。 ・2年生では視聴覚教材を活用して平和学習を行った。 ・学校生活アンケートにおいて「人権教育の推進に努め、生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ教育活動を推進している。」と最も肯定的に答える教職員の割合は67%であった。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・どの指標も目標を達成できた。来年度も2回の集中実践に向けて丁寧に計画し、取り組んでいく。		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (特別支援教育委員会)	進捗状況	
取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学―11) 「個別の教育支援計画」の作成にあたっては、保護者との面談を行い、個々の障がいの状態等を踏まえたうえで計画を立てる。また、合理的配慮の観点から、特別支援学級に在籍する生徒の困っていることや、求めていることを知り、支援する。	B	
指標 ・学期に1回、保護者及び関係諸機関等と連携し、必要に応じて加筆・修正する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組内容】について ・「個別の教育支援計画」の作成にあたっては、小学校からの引継ぎや中学校生活の様子をもとに、計画を立て、1学期、2学期末の懇談時に保護者へ確認をとり、修正点があれば、随時修正した。計画に基づき、支援を行っている。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・家庭と学校が協力して生徒の支援を進めるため、今後も日々の学校生活や学校行事での生徒		

の様子を保護者に伝えていく。また、生徒本人や保護者の思いや願いも「個別の教育支援計画」に反映できるように、家庭との連携をとる。特別支援学級担任や通級指導担当、学級担任、家庭とで連携をとりながら「個別の教育支援計画」の作成、支援を行っていく。	
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-11) 「個別の指導計画」について、学期ごとに目標を定め、生徒の自立に向けて支援する。 ----- 指標 ・学期に 1 回、保護者と目標の達成状況を共有する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】について ・学期ごとに短期目標の達成状況を本人、保護者と確認した。達成状況をもとに短期目標を立て、支援することができた。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・目標の達成状況や本人、保護者との話し合いを「個別の指導計画」に反映させ、今後の支援に役立てていく。	B
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-11) 特別支援教育委員会において、通常学級担任・特別支援学級担任・通級指導担当・HER 担当や教務主任・生徒指導主事も含めて生徒の情報を共有する。 ----- 指標 ・2 か月に 1 回、特別支援教育委員会を実施し、生徒の状況について情報を交換する。 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 76%にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は前期 79%、後期 85%であった。 【取組内容】について ・日頃より通常学級担任との情報共有に努めている。また、2 か月に 1 回の特別支援教育委員会や学年会などでも、情報共有に努めている。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・今後も特別支援学級在籍生徒が、学級や学年で通常学級の一員として、周りの生徒の理解を得ながら充実した学校生活を送れるように支援していく。	進 捗 状 況
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (進路)	
取組内容①【基本的な方向 8 生涯学習の支援】(学-6) 3 年間を見通した指導計画を立て、生徒自らが個性を伸ばし、自己実現をめざしてその生き方を考え、将来に対する目的意識をもって、主体的に進路選択ができるようにする。 ----- 指標	B

<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校生活アンケートにおける「進路決定に際しては、自分の気持ちを大切に、主体的に考えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を58%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進路決定に際しては、自分の気持ちを大切に、主体的に考えている」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度より2ポイント増加して57%であり、目標値を少し下回った。しかしながら、3年生だけに限れば71%に達しているので、将来の生き方を本格的に考えるべき立場の生徒は、ある程度考えることができているようである。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度もさまざまな感染症の影響を受けることもなく、今のところ生徒への進路情報の提供は、ある程度いきわたっているように思われる。進路通信や学年集会での呼び掛けだけでなく、普段の授業中においても、機会があれば情報提供をするよう心掛けてきた。また、進路に関する話をするときには、『自らの手で納得のいく進路を獲得する』ということをもとに行うようにしてきた。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生では「職業講話」、2年生では「職場体験」の取組だけで進路指導を終えてしまうのではなく、普段からの呼び掛けや啓発活動を大切に、継続的に『自らの手で納得のいく進路を獲得する』ことのできる進路指導を行っていきたい。 	
<p>取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】(学-4)</p> <p>進路についての理解を深めさせるために、体験学習・学校説明会への参加案内発行や進路説明会開催などによる進路情報の提供、進路資料を活用した学級活動や進路相談を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校生活アンケートにおける「提供された進路の情報をきちんと理解できている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を48%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路相談などで気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を48%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教育相談や進路相談などで気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度と同等の45%であり、目標値を下回ったが、3年生だけに限れば49%に達した。さまざまな感染症等の影響により、対話すること自体にまだ制限がある中、教職員の普段からの丁寧な声掛けが、一定の評価を受けているものと思われる。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「提供された進路の情報をきちんと理解できている」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度より2ポイント減少して45%であり、目標値を下回ったが、3年生だけに限れば58%に達した。進路通信の発行や学年集会での呼び掛けによる 	

情報提供をこまめに行ってきた。また、体験学習や学校説明会への参加については、大量に送られてくる案内のほとんどを生徒に提示して、参加を呼び掛け、それを促してきた。1・2年生が参加しても良いものについても、1・2年生に呼び掛けてきた。		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
・進路説明会等を活用して、進路情報の収集及び整理をさらに図っていきたい。そして、進路指導委員会を中心に情報の共有と組織的な解析を進めながら、全教職員が共通理解を図り、生徒・保護者に対してきめ細やかな進路指導を行えるようにしていきたい。特に、生徒一人ひとりに対して、普段からの細やかな声掛けや丁寧な説明を心掛けたい。		
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-6)		B
1年生での「職業講話」、2年生での「職場体験」、3年生での「プレハイスクールセミナー(出前授業)」という系統的なキャリア教育を通じて、将来の進路や生き方について考えさせ、社会の一員としての在り方や興味・関心に基づく勤労観・職業観を育成する。		
指標		
・令和5年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を59%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
・「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度より2ポイント減少して57%であり、目標値を下回ったが、3年生だけに限れば68%で目標値を上回った。3年生に関しては、さまざまな感染症等の影響も少なく、早くから、オープンスクールや入試説明会への参加が見られたり、2学期に入ってから希望の進路先への質問をしてきたり、少しずつ進路決定への興味関心が高まっていき、3学期を迎えることができた。		
【取組内容】について		
・3年生については、7月に「プレハイスクールセミナー(出前授業)」を無事行うことができ、将来の進路や生き方について考えるきっかけとすることができた。2年生は11月に「職場体験」を実施した。1年生は3月に「職業講話」の一環として「自分を知る」取組を実施予定である。		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
・1年生の割合については、学年での進路の取り組み(「自分を知る」)がまだ行われていないこともあり、40%台後半にとどまった。将来の進路や生き方について興味を持たせることができるようなものにしていきたい。2年生については、「職場体験」が、将来の進路や生き方について興味をもつきっかけとなり、50%半ばに達した。3年生に向けて、その興味・関心をさらに高められるよう、声掛けをしていきたい。3年生については、これから本格化する進路相談・進路懇談について、学年間の連携を密にし、その中身を充実させることで、将来の進路や生き方を十分に考えさせていきたい。		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (第1学年)		進捗状況

取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-2)		B
集団生活における基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守り、正しい判断と行動ができる態度を育成する。		
指標		
・令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を62%以上にする。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を62%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
・令和5年度の前期学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は60%で、年度目標及び取り組み内容の指標が2ポイント下回っていたが、後期学校生活アンケートにおいて、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は65%で、年度目標及び取り組み内容の指標を3ポイント上回っていた。		
【取組内容】について		
・令和5年度の前期学校生活アンケートにおける「あいさつなどを積極的に行っている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は56%で、年度目標及び取り組み内容の指標が6ポイント下回っており、後期学校生活アンケートにおいて、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は58%で、年度目標及び取り組み内容の指標を4ポイント下回っていた。		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
・前期のアンケート結果をもとに、班活動などの取り組みを生かし、注意や呼びかけが活発にできる集団育成を目指してきたが、その成果が少しずつ出てきているように感じている。今後も、生徒が主体となって、ルールを守り、正しい判断と行動ができる態度を育てていきたい。		
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】(市-1 学-5)		C
中学校の一員としての自覚を持たせ、互いの個性を尊重し、信頼しあえる人間関係を育成する。		
指標		
・令和5年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を62%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】・【取組内容】について。		
・令和5年度の前期の校内調査において、いじめ事象は4件あった。発覚次第指導・家庭連絡等を行っている。現在も継続指導中である。また、後期の校内調査において、いじめ事象は1件あり、指導・家庭連絡、継続指導中である。		
・令和5年度の前期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力している。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が56%で、年度目標及び取り組み内容の指標が6ポイント下回っており、後期学校生活アンケートにおいて、最も肯定		

的な「当てはまる」と答える生徒の割合は53%で、前期よりも3ポイント下回った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・道徳科授業や集会などを通して、周囲のことを考えながら行動ができる心を育んでいきたい。 また、他を認め、他と協力する気持ちを行事や日常の生活などで育んでいきたい。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】(学-2・6) 一人ひとりが目標を持ち、すべての授業・班活動・係活動・委員会活動・学年集会を通じ、前向きな生活態度・学習態度を育成する。	C
指標 ・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を52%以上にする。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶように努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を33%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】・【取組内容】について ・令和5年度の前期学校生活アンケートにおいて、「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が46%で、年度目標及び取り組み内容の指標を6ポイント下回っており、後期学校生活アンケートにおいて、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は47%と、前期よりは1ポイント上回っていた。 ・令和5年度の前期学校生活アンケートにおいて、「自ら学ぶように努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が28%で、年度目標及び取り組み内容の指標を5ポイント下回っており、後期学校生活アンケートにおいて、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は31%と、前期よりは3ポイント上回っていた。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・進路学習を実施する以前のアンケートになるため、実施後の2年生の前期アンケートの結果も含めて分析を進めていきたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (第2学年)	進 捗 状 況
取組内容① 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】(市-1 学-5) 道徳授業、学年集会、日々の学活等の様々な体験学習を通じ、素直な気持ちを育むと共に、他を思いやる心を育てる。	A
指標 ・令和5年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を55%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・令和5年度後期の校内調査において、いじめ事象は1件あった。発覚次第指導・家庭連絡等を行っている。現在も継続指導中である。	
【取組内容】について	

・令和5年度の後期学校生活アンケートにおいて、「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は73%で目標を18ポイント上回った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・今後もいじめのない学年づくりをしていきたい。そのために集会や学活での人権教育を充実していく。また人権の大切さについて学んでいると思えるよう、引き続き話す内容も厳選していきたい。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】(学-2) ルールや時間を守り、元気よくあいさつのできる前向きな生活態度を持つ集団を育成する。	B
指標 ・令和5年度の学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・令和5年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は71%で目標を6ポイント上回った。 【取組内容】について ・令和5年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は63%で目標を2ポイント下回っている。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・登校時間や集会の集合、授業開始チャイム前着席など、時間を意識した行動はできている。一方で、不十分な生徒もみられる。3年生では学校での役割も大きくなることも踏まえ、今後も継続して話していく。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】(学-2) 班活動・委員会活動などを通じ、よりよい人間関係を築き、自主的・実践的な態度を育成する。	A
指標 ・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を45%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・令和5年度の後期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力してい	

る」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 72%で目標を 7 ポイント上回った。	
【取組内容】について	
・令和 5 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 45%で目標通りだった。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・職業体験では、クラス以外の仲間とも協力する姿があり、事前学習から本番まで熱心に活動できた。3 年生では修学旅行を控えており、更に意識を高めていきたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（第3学年）	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-2) 集団生活における基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守り、正しい判断と行動ができる態度を育成する。	A
指標 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 62%以上にする。 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 55%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和 5 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 63%で目標に達した。	
【取組内容】について	
・令和 5 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 59%で目標に達した。	
次年度への改善点	
・集団行動を通して声掛けを行い、高い意識のもとで行動できる生徒が増えた。	
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】(市-1 学-5) 中学校の一員としての自覚を持たせ、互いの個性を尊重し、信頼しあえる人間関係を育成する。	A
指標 ・令和 5 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 67%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和 5 年度後期の校内調査では、いじめ事象はなかった。	

【取組内容】について	
・令和5年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は73%で目標に達した。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・最後の行事である卒業式まで、更なる改善を意識しながら注意深く見ていきたい。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】(学-2)	A
道徳授業や学年集会・班活動・係活動・委員会活動を通じ、前向きな生活態度・学習態度を育成する。	
指標	
・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を64%以上にする。	
・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を48%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は71%で目標に達した。	
【取組内容】について	
・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は54%で目標に達した。	
次年度への改善点	
・今後も卒業に向けて、それぞれ一人ひとりが自分の役割を全うし、達成感を感じる場面を増やしていきたい。中学校で学んだことがこの先に少しでも役立つように指導をつづけていきたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (校長経営戦略支援予算基本)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】(学-1)	B
1年の一泊移住、2年の校外学習、3年の修学旅行における活動を通じて、互いに協力し、支えあい、認め合う姿勢を養い、安全・安心な学校生活を築く。	
指標	
・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・学校生活アンケート結果より	
目標 66 R5後 66 R5前 65 R4後 64 R4前 68	
目標値にを達成した。肯定的な回答の割合をたどったところ、前期は93ポイントと昨年度よりわずかに下回っていたが、後期は95ポイントと、昨年度水準に回復した。また、年間	

を通して 100%に近い結果となった。	
【取組内容】について	
・宿泊行事や、特別活動など、様々な学校行事を通して生徒たちに良好な関係を築く姿勢を養うことができた。また、学校行事に限らず、教職員が普段よりきめ細やかに生徒同士の人間関係を注視し、問題行動や課題に対して未然に、あるいはいち早く対応してきたことが結果につながったと考える。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・次年度に向けても、今年度同様、泊を伴う学校行事を中心に、体験活動を通して生徒同士が互いに協力し合い、支え合い、認め合う姿勢を養っていける場を提供したい。	
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学－12)	B
文化発表会や日々の授業において、鑑賞や体験学習などの中で、歴史文化や伝統ある文物に触れ、表現の豊かさや美しさ、すばらしさを感じとることで感性や情操を高める。	
指標	
・令和5年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習（行事や授業など）を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的に答える生徒の割合を 52%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・学校生活アンケート結果より	
目標 52 R5 後 52 R5 前 48 R4 後 50 R4 前 44	
目標値を達成した。肯定的な回答の割合をたどったところ、前期は89ポイントと昨年度を上回っており、後期は91ポイントと、昨年度同等の水準であった。また、年間を通して90%に近い結果となった。	
【取組内容】について	
・文化発表会を通し、生徒は作品作りや合唱練習などに取り組んだ。また、2年生では文楽鑑賞を、3年生では茶道体験や華道体験を行った。これらの体験活動が、手本や模範となる作品、あるいは他の生徒による高く評価できる作品等の鑑賞を通じ、芸術や伝統文化のすばらしさを意識する機会となった。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・計画や準備など、教職員側の負担は多い一方、生徒たちへの教育効果は高いことが伺えた。指導者の確保など、できるだけ学校外のリソースを活用しながら、教職員の負担の軽減と、指導の質の確保とをめざしたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (管理職)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の育成】(学－8)	B
各種行事や PTA 活動等を通じて開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域が相互に協力する体制を構築する。	
指標	
・令和5年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事や PTA 活動などを通じ	

て、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 24%以上にする。また、令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「学校行事や PTA 活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 53%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について（現状と課題）	
・学校生活アンケートより	
保護者	目標 24 R5 後 28 R5 前 22 R4 後 22 R4 前 19
教職員	目標 53 R5 後 64 R5 前 50 R4 後 51 R4 前 47
学校生活アンケートにおいて保護者、教職員ともに数値は、目標値を達成した。	
【取組内容】について	
・昨年度と比べ、学校行事に保護者が参観できる、あるいは保護者に手伝っていただく機会が増えている。PTA の常置委員会を中心に、行事では受付や自転車整備、制服回収をお手伝いいただいた。また、宝塚歌劇団の鑑賞や盲導犬協会の見学・研修では、行事を企画と立案、実施をしていただくなど、保護者が学校と関わる機会を増やすことができた。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・保護者が学校と関わる機会が増えた流れを大切にしながら、次年度も引き続き、より学校行事の中に保護者が参加できる機会を増やしていきたい。また PTA 役員を中心に、保護者と協働する機会を設け、「チーム学校」の一翼を担う存在として保護者を巻き込んで学校の教育活動の中で子どもたちを育てていく姿勢を保ちたい。	

大阪市立東中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を51%以上にする。 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を61%以上にする。 令和5年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を54%以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和5年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を47%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を26%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を56%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を66%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と 	B

と答える生徒の割合を 66%以上にする。	
9. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 70%以上にする。	
10. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 40%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（教務部）		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-1 学-2） 言語活動の取り組みをすべての教科で取り入れ、思考力・判断力・表現力・読解力の育成を図り、学力向上に生かす。		B
指標 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にする。 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を 51%以上にする。 ・言語活動を取り入れた授業を、すべての教科で、年 1 回の公開授業において行う。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 59%で、目標を 12 ポイント下回った。 【取組内容】について ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合は 46%で、目標を 5 ポイント下回った。 ・今年度も 9 月から 10 月にかけて、思考力・判断力・表現力・読解力の育成を目標に、全教職員の言語活動を取り入れた公開授業を実施した。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・公開授業・研究授業等、研修を生かし、今後も授業改善に努める。		
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-2・3） 授業の予習・復習等に活用できる家庭学習教材を作成、提供し、自主学習の習慣を定着させる。自ら学ぶ態度を養い、学力の向上を図る。		B
指標 ・家庭学習教材を授業ごとに提供する。		

<ul style="list-style-type: none">・令和５年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶよう努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を昨年度と同等以上にする。・令和５年度の学校生活アンケートにおける「自ら学ぶ方法や家庭学習の習慣を身につけさせるために、保護者に対して様々な働きかけをしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を昨年度と同等以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・大阪市英語力調査におけるＣＥＦＲ Ａ１レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合（４技能）は 76% となり、目標値を大幅に上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和５年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶよう努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 38% で、昨年度と同等であった。・令和５年度の学校生活アンケートにおける「自ら学ぶ方法や家庭学習の習慣を身につけさせるために、保護者に対して様々な働きかけをしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 44% で、昨年度を 15 ポイント上回った。		
次年度への改善点		
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・チャレンジテストに向けて、今後も予習・復習に活用できるような家庭学習教材の提供や、自主学習を促すような授業・教材をより工夫し、提供できるようにする。		
取組内容③【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】（市-2・3） 教科の年間指導計画及びシラバスを作成し実践する。		B
指標 <ul style="list-style-type: none">・令和５年度の学校生活アンケートにおいて「教科の年間指導計画や指導案を作成し、実践するとともに、教材を工夫し、授業改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を昨年度と同等以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・大阪市英語力調査におけるＣＥＦＲ Ａ１レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合（４技能）は 76% となり、目標値を大幅に上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和５年度の学校生活アンケートにおいて「教科の年間指導計画や指導案を作成し、実践するとともに、教材を工夫し、授業改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 72% で、昨年度を 4 ポイント下回った。		
次年度への改善点		
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・授業や懇談会・集会等で、学習内容・学習方法・評価方法等を保護者や生徒に理解してもらえよう努める。		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（国語科）		進捗状況
取組内容①【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】（市-2） 国語を適切に表現し、自主的、意欲的に理解を深められるような、授業内容の創造と教材づくりを行う。		B

指標		
・令和5年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年1.11、2年1.10）より向上させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
・令和5年度の中学生チャレンジテストについては3年生は1.10で目標より1ポイント低かった。2年生については、1.11となり、目標に対し、0.01ポイント上回った。		
【取組内容】について		
・ICT機器を活用した授業などを実施し、意欲的に取り組むことのできる授業づくりを行っている。		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
・チャレンジテストにおいて目標達成できるような授業を、今後とも実践していく。		
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-1・2)		B
計画的に習熟度別授業を実施することにより、「個に応じた教育」を進め、学力向上へとつなげる。		
指標		
・令和5年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。		
・令和5年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える児童(生徒)の割合を50%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
・令和5年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える児童(生徒)の割合は58%となり現時点で8ポイント目標を上回っている。「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は59%と、目標を12ポイント下回った。		
【取組内容】について		
・「文法」の分野や「創作活動」などにおいて習熟度別少人数授業を行っている。		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
・今後も生徒の理解が難しい分野などを中心に、習熟度別少人数授業を行っていく。		
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-1 学-3)		B
国語を学ぶ上で基礎基本となる語彙力を高め、言語を通した思考力を育成する。		
指標		
・漢字能力検定試験を、希望者を対象に年に1回を目安に、校内で実施する。漢字学習の動機づけとするとともに、中学校配当漢字を網羅した漢字能力検定への取組を通じて、語彙力を向上させる。また、受検の有無に関わらず、語彙力を向上させ、「漢字を文や文章の中で使うことのできる力」を身につけさせる。		
・自分の考えを言語で表現できる授業展開を工夫し、学校生活アンケートで「授業終了ま		

<p>で授業に集中していた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合について、昨年度と同等以上（47％）にする。</p> <ul style="list-style-type: none">・令和５年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 26％以上にする。・図書室を利用した授業を全学年で合計 20 回以上実施する。図書室での授業を通して、資料等を活用し、自分の思考をまとめ、表現する方法を身につけさせるとともに、読書活動の推進を図る。・令和５年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答した生徒の割合を前年度（49％）より増加させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・漢字能力検定を 10 月 20 日に実施した。受験者数は 58 名であった。・令和５年度の学校生活アンケートにおいて「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 36％と、10 ポイント上回った。「授業終了まで授業に集中していた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 56％と、9 ポイント上回った。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答した生徒の割合は 46％と、3 ポイント下回った。・図書室を活用した授業は現時点で 24 回実施しており、２年生ではビブリオバトルを取り入れ、大会にも参加することができた。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・漢字検定においては多くの生徒が合格できるように、１週間前学習会を予定している。・目標の数値を上回っていない項目もあるので話し合いの活動などを中心に改善をしていく。		
次年度への改善点		
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・「授業終了まで授業に集中していた」の項目が目標を上回っているので、引き続き取り組みを続けていく。・国語科の教科性を活かして、漢字学習や読書に、より取り組めるように改善していく。		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（社会科）		進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】（市－2）</p> <p>单元ごとの復習プリントを活用し、授業の内容を確認させ、さらなる学習理解をはかり、基礎的・基本的な学力の向上を図る。</p>		B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・令和５年度の３年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度（３年 1.09）より向上させる。・令和５年度の学校生活アンケートにおける「社会の授業に主体的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 56％以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>【年度目標】について</p>		

<ul style="list-style-type: none">・令和5年度の3年生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較した結果（3年1.06）と、0.03ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の後期学校生活アンケートにおける「社会の授業に主体的に取り組んでいる。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は62%で目標を6ポイント上回った。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・引き続き社会の授業に主体的に取り組めるよう、基礎学力の定着を図り、授業改善を行っていく。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（学－7） 国内だけでなく、国際社会に起こる社会的事象に対する興味・関心を高め、国際社会において生き抜く力を育成する。	B
指標 <ul style="list-style-type: none">・授業においては、社会事象に関する話題を取り上げ、また、定期テストにおいても時事問題を取り入れた設問を出題する。さらに、令和5年度の学校生活アンケートにおいて「社会事象に興味・関心を持つようになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を55%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度後期学校生活アンケートにおいて「社会事象に興味・関心を持つようになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は56%と目標の1ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・今後も、目標の達成に向けて取り組みを進めていく。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・引き続き時事問題に関する話題を取り上げ、興味・関心をもつよう指導していく。	
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-1、学－2） 調べ学習や課題解決を通して自分の考えを深めたり、広げたりする学習を行い、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	C
指標 <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を74%以上にする。・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を、前年度（49%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の後期学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなどの授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた教職員の割合は59%で目標を15%下回った。・令和5年度後期学校生活アンケートにおいて「学校の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合は	

46%で目標の3ポイント下回った。	
【取組内容】について	
・下回った原因として、感染症対策が緩和したが、言語活動を取り入れた授業展開が以前のように充実できていないからだと考えられる。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・言語活動を通して、読解力を中心とした思考力・判断力・表現力を育成し、目標達成にむけて工夫していく。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（数学科）	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（市－1・2） 基礎的・基本的な概念や知識の定着をめざすとともに、数学的活動を通して思考力・判断力・表現力の育成を図る。	C
指標 ・令和5年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度（3年1.24 2年1.17）より向上させる。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度（49%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和5年度の3年生チャレンジテストにおける対府平均比は1.2で、同一母集団で比較すると、昨年度2年生1.24より0.04下回った。 ・学校生活アンケートにおける「学校の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は46%で、昨年度より3ポイント下回った。	
【取組内容】について	
・学校生活アンケートにおいて、昨年度から3ポイント下回っている点について、授業中の話し合いが少ないことが原因と考えられる。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・全学年の数学の授業において、主体的、対話的な学習を意識して行う。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（学－1） 計画的に習熟度別授業を実施することにより、「個に応じた教育」を進め、学力向上へとつなげる。	B
指標 ・習熟度別少人数授業を通年で計画的に実施する。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「数学の習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度（47%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	

<ul style="list-style-type: none">・習熟度別少人数授業について、3年生については計画的に行えている。・学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は50%で、昨年度から3ポイント上回った。特に2年生では、2学期の定期テスト前に、クラス内分割であるが、習熟度別の授業をした結果、前期34%から後期54%と20ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・3年生については、習熟度別少人数授業を週3時間行えている。1、2年生について、習熟度別少人数授業の時間を取れないのが、芳しくない結果の原因であると考えられる。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・授業中の話し合いの時間を増やせるように努める。・1、2年生で習熟度別少人数授業の定期的な実施は難しいが、2、3学期はテスト前や単元の区切りに行うように計画する。実施回数が少ない分、授業内容の充実・改善に努める。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（理科）	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-2） 自然現象に対して自主的、意欲的に理解を深められるような、授業内容の創造と教材づくりをおこなうとともに、演示実験やプリント教材を有効に活用し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。	B
指標 <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学校生活アンケートにおける「理科の実験・観察などの授業に興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。・令和5年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度（1.16）より向上させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の育成に向けた教材づくりには努めており、「理科の実験・観察などの授業に興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は65%であり、前年度を3ポイント上回り、目標を達成した。・令和5年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比は、同一母集団で比較し、1.12であった。前年度（1.16）を下回ったものの、中央値は52.0であり、これまで学年の課題であった二つ山型が解消されていた。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・全学年で振り返りシートを活用しており、「何がわからなかったのか」「どのように学習しているのか」を具体的に記述させている。・教室での演示実験を進めている。気温が上がると理科室が高温になるなど、生徒の健康面への不安から、理科室を積極的に利用できなかった。・小テスト等で基礎的・基本的な学力の向上を図っている。・教室での演示実験で生徒の興味関心を引くよう努めている。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p>	

・目標値に向けて、来年度は生徒の学力向上をめざすよう取り組む。小テストや副教材を用いた基礎的・基本的な学力向上だけでなく、思考力・判断力・表現力を伸ばす教材作成に努めたい。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(市 - 1 学-2) 実験・観察を多く取り入れことにより、理科に対する興味・関心を高め、様々な自然現象について論理的に説明する能力を育成する。	C
指標 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「理科の学習に主体的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 54%以上にする。 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にする。 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度（49%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・「理科の学習に主体的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 55%であり、前年度と同じ値であった。 ・「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 59%であり、前年度を大きく下回った。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 46%であり前年度を 3 ポイント下回ったが、「自分の意見をまとめたり、発表したりする機会がよくある」に対しては、昨年度と同じ 28%であった。 【取組内容】について ・「主体的」という用語について生徒に理解が不十分なままアンケートを行った可能性がある。 ・授業では発表や話し合いの場面を取り入れるようにしている。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・結果から、「自分の意見をまとめる」ことができて、「友達との話し合う活動」での成果を得られていないと生徒が感じている可能性がある。来年度は、授業で発表や話し合いの場面を多く取り入れ、生徒が互いの考えを交流し、対話によって考えが広がる体験活動ができるよう努めたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (音楽科)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-2) 基礎発声の継続的な練習と、感性を育て表現力を培うためのよりよい教材の精選、生徒の興味・関心を生かした意欲的な学習を行う。	B
指標 ・学期に 1 回、歌唱もしくは器楽の実技テストを行い、表現活動における個々の次の目標	

設定に役立てる。	
・令和5年度学校生活アンケートにおける「音楽の授業に積極的に参加できた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を54%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・実技テストは学期ごとに一回以上行った。	
・「音楽の授業に積極的に参加できた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は59%であり、前年度に対して5ポイント上回った。	
【取組内容】について	
・実技において、一斉活動だけでなく、班やグループでの活動も取り入れ、話し合いの中で多様な考えを引き出そうとした。ICT機器を用いた資料の提示、実技が苦手な生徒の補助(各自のタブレットでのリコーダーの運指の表示など)を行った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・来年度も、普段の実技や各学年合唱コンクールの取り組みなどを通して、クラスの仲間と協力して一つのものをつくりあげることや表現することの喜びや楽しみを感じられるように、知識の習得だけでなく体験にも重きを置いて授業を行っていく。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-1)	B
幅広い音楽分野の表現と鑑賞活動により、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じとり、表現の創意工夫につなげていく。	
指標	
・全学年とも学期に一回鑑賞を行う。	
・令和5年度学校生活アンケートにおける「集中して音楽を聴くことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を50%以上にする。	
・令和5年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度(49%)より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・各学年、学期ごとに一度以上鑑賞を行った。(3年生の3学期以外)	
・「集中して音楽を聴くことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は66%であり、目標値を16ポイント、今年度前期を2ポイント上回っている。	
・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は46%であり、前年度より3ポイント下回った。今年度前期からは2ポイント上回った。	
【取組内容】について	
・話し合いの中で多様な考えを認め合えるように、班やグループでの活動を取り入れた。また、ICT機器を用いた資料の提示などを行った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・アンケートでは目標を下回ったものもあるが、来年度も継続して、音楽を集中して聴くこととそこから自分の感じたことや考えたことを言語化すること、そしてそれを共有して考えを深め合う活動を、できる限り行っていく。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（美術科）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（学一2） 発想力を豊かにし、知識・技能の向上に努め、意欲的に表現活動に取り組む態度を育てるため、取組内容や教材を精選する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての題材で言語活動の充実を図り、振り返り用のプリントを利用して学習内容の定着を図る。 令和5年度末における学校生活アンケートで「美術の授業に積極的に参加できた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合について、全体の55%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の後期学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は59%であり、前年度を大きく下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての題材で振り返り用のプリントを利用したり、作品紹介文を制作したりして、言語活動の充実と学習内容の定着を図っている。 令和5年度後期における学校生活アンケートで「美術の授業に積極的に参加できた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は58%で、目標値を3ポイント上回っている。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体のアンケート結果は目標値を達成しているが、学年によってばらつきがあり目標値に届いていない学年がある。引き続き生徒の興味・関心を引き出し深める授業展開の工夫に努める。 「かく」「つくる」の振り返りプリント等の他、鑑賞の活動も取り入れて、様々な面で言語活動の充実を図っている。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-1） 造形的なよさや美しさ、素材の生かし方、作者の心情や意図と造形的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう力を養うため、鑑賞活動の充実を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年において、鑑賞活動を主とした単元を前後期各1回ずつ行う。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、51%以上にする。 	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の前期学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当て 	

はまる」と答えた生徒の割合は 46%で、目標値を 5 ポイント下回っている。	
【取組内容】について	
・各学年において、鑑賞活動を主とした単元を前後期 1 回ずつ行った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・鑑賞活動を主とした単元について、計画通り取り組むことができた。	
・話し合い活動を効果的に取り入れ、学びの実感につながるよう指導方法を工夫する。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（保健体育科）	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】（学一8）	C
・年度当初、男女共修での集団育成を重点的に行い、授業規律の確立、授業への意識の向上を図る中で授業効率を高め、運動量の確保に取り組む。	
・教科書やワークシートで知識の理解を深め、体育館に設置された ICT 機器を最大限に活用し、視覚的にもわかりやすい授業展開を図る。	
指標	
・令和 5 年度に校内で実施をする第 2 学年の体力テストにおいて、令和 5 年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を全国平均以上にする。	
・令和 5 年度に校内で実施をする第 2 学年の体力テストにおいて、令和 5 年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、AB-DE の数値を全国平均以上にする。	
・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業等に積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 60%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和 5 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査関係における体力合計点を全国平均以上に する目標については、男子で 0.43 ポイント・女子で 2.11 ポイントそれぞれ下回った。	
・令和 5 年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点が全国平均より男子 AB が マイナス 4.3%・DE が 1.3%、女子 AB がマイナス 11.1%・DE がマイナス 0.7%であった。	
・令和 5 年度後期の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業 等に積極的に取り組んでいる」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の 割合は 64%で目標を 4 ポイント上回った。	
【取組内容】について	
・集団育成を重点的に行い、授業規律を確立できた。また、授業効率を高めたことによって、運 動量の確保に取り組んでいる。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・生徒の主体的な活動を目標に、授業計画や実践に努めている。その成果もあり、保健体育の授 業に積極的に参加をする環境が整いつつある。しかしながら、体育（運動）を苦手とする生徒 へのアプローチには課題が残っている状況である。様々な生徒が、運動への興味関心を高める ことができるよう、ICT 機器も用いながら工夫改善を図る。	
取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】（市一4）	C
・体力テストの実施に向けて、昨年度の結果を再掲示するとともに自己の昨年の記録をも	

<p>とに今年の目標を設定させることで、意欲的に体力テストに臨む姿勢を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト実施後の結果について、一昨年度の全国・大阪府と比較分析したものを掲示し、自己の記録との比較を通して、課題を見つけさせるなど、生徒の意識向上を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和５年度に校内で実施をする第２学年の体力テストにおいて、令和５年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（Ａ～Ｅ）の内、ＡＢの割合を男子３５％以上、女子６５％以上にする。 ・令和５年度に校内で実施をする第２学年の体力テストにおいて、令和５年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（Ａ～Ｅ）の内、ＤＥの割合を男子２５％以下、女子１５％以下にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和５年度に校内で実施をする第２学年の体力テストにおいて、令和５年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（Ａ～Ｅ）の内、ＡＢの割合は男子２８．３％で６．７ポイント下回り、女子４１．８％で２３．２ポイント下回った。 ・令和５年度に校内で実施をする第２学年の体力テストにおいて、令和５年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（Ａ～Ｅ）の内、ＤＥの割合は男子３１．４％で６．４ポイント下回り、女子１９．８％で４．８ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の結果を上回るよう目標設定をして取り組んだ。また、掲示物を活用し記録の向上に役立てた。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業でランニング、柔軟運動、補強運動を取り入れた授業を実践する。また、単元ごとに必要なからだづくり運動、神経系の準備運動を取り入れ、様々な体力の要素を高める。 	
<p>取組内容③【基本的な方向５ 健やかな体の育成】（学－８）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト・体育大会・マラソン大会・球技大会を日頃の体育の授業や部活動での成果を発揮する場として位置づけ、体育委員会を中心とした主体的活動に取り組む。 ・体育大会実行委員会活動や縦割り活動を積極的に行い、学年間の交流を深め、主体的に行事や授業に取り組ませることで効果的な伝承を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和５年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を５４％以上にする。 ・令和５年度の後期学校生活アンケートにおける「学校行事である体育大会では自分の力を十分に発揮できる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を５８％以上にする。 ・令和５年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を５０％以上にする。 ・体育委員会による昼休みの「ボールの貸し出し」活動を本年度も年間を通して実施し、 	<p>B</p>

<p>主体的に運動に親しむ機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの水泳指導を実施する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合は男子65.4%で11.4ポイント上回り、女子49.5%では4.5ポイント下回った。 ・学校生活アンケートにおける「学校行事である体育大会では自分の力を十分に発揮できる」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は57%で目標を1ポイント下回った。 ・令和5年度前期の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は46%で目標を4ポイント下回った。 ・体育委員会による昼休みの「ボールの貸し出し」活動は年間を通して実施している。 ・夏休みの水泳指導は2日実施した。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会では体育大会実行委員主体で取り組むことができた。 ・体育大会実行委員会の活動の中で、早朝より東中体操(令和5年 ver)に取り組み、体育大会当日全校生徒・保護者の前で披露することができた。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの主体的な活動が、体育大会や行事という期間限定の活動にならないようにする。また、日頃から体育委員を中心とした共同学習を取り入れた授業展開を図る。 	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (技術・家庭科)</p>	<p>進捗状況</p>
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-5)</p> <p>ICT機器を活用した学習活動を通して、基礎的・基本的な内容の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の学校生活アンケートで「授業に積極的に取り組み、基礎的な知識や基本的な技術が身についた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合について、全体の50%以上にする。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。 	<p>B</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度後期学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が62%で、年度目標及び取り組み内容の指標が8ポイント下回っている。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度後期学校生活アンケートで「授業に積極的に取り組み、基礎的な知識や基本的な技術が身についた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が55%で、年度目標及び取り組み内容の指標が5ポイント上回っている。 	

次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">ICT 機器を多用して授業展開が図れた。実習も計画通りに行えて、基礎的な知識や基本的な技術を身につけさせることができた。来年度以降も生徒一人一人に丁寧な実習指導を心掛けて授業を展開していきたい。	
取組内容②【基本的な方向 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市-1 学-2）	C
工夫し創造する能力の育成をねらい、言語活動を取り入れた授業実践を行う。	
指標	
<ul style="list-style-type: none">3カ年の指導計画を見通しながら、各領域で少なくとも1回は言語活動を取り入れた授業実践を行う。令和5年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度（49%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度後期学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が59%で、年度目標及び取り組み内容の指標が11ポイント下回っている。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度後期学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が46%で、年度目標及び取り組み内容の指標3ポイント下回っている。言語活動を各分野・内容項目で行うことができている。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">言語活動を取り入れた授業実践はできているが、十分な時間を確保でききれなかったことが来年度への課題として挙げられる。3年生は特に時間数を確保して取り組んだが週1時間の授業では難しいところもある。今後も言語活動のさらなる充実に努め、思考力・判断力・読解力の向上を図りたい。	
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（学-6）	A
技術分野の学習において、論理的思考を促す授業展開を行う。	
指標	
<ul style="list-style-type: none">令和5年度の学校生活アンケートで「技術家庭科（技術分野）の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を57%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p>	

・技術家庭科（技術分野）の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた、最も肯定的な答えた生徒の割合は 66%であった。	
【取組内容】について	
・上記に同じ	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・プログラミングは 2・3 年生の 2 月頃から毎年行うため、現 3 年生の割合のみとなっているが、昨年度の授業内容がある程度定着したと見て取れる。今後も丁寧な指導を心掛けたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（英語科）	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-3） 英語での表現活動を多く取り入れることにより、表現力を育成する。	B
指標 ・令和 5 年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3 年 1.19、2 年 1.12）より向上させる。 ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 76%以上にする。（昨年度 76%）	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・チャレンジテストについて 3 年生の対府平均比は 1.17 となり目標を 0.02 ポイント下回った。2 年生の対府平均比は 1.16 となり、目標を 0.04 ポイント上回った。 、 。	
・大阪市英語力調査について C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）は 76%となり、目標を達成することができた。	
【取組内容】について	
・英語でのインプットをたくさん行い、それに伴ってアウトプットの活動を促すことにつながった。また、C-NET とのインタビューテストやアクティビティで言語活動を行い、英作文やスピーキングの表現力を育成できたと思われる。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・4 技能の活動をまんべんなく行うことで、アウトプットの活動を促すことにつながった。これらの結果をふまえて、今後も授業の中で積極的に英作文やスピーキング活動を行うことで、表現力を育成できるように努める。	
取組内容② 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（学-1） 個に応じた指導方法を工夫し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。	A
指標 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「ティームティーチングの授業や習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を前年度（43%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度の学校生活アンケートにおける「ティームティーチングの授業や習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は52%で、昨年度より9ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">3年生については、履修事項の確認を、週1回習熟度別少人数授業で実施している。今のところ、1, 2年生においても、ティームティーチングの授業を中心に展開し、必要に応じて習熟度別少人数授業を行っていくことができた。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">今後も、ティームティーチングの授業や習熟度別少人数授業の形態や内容を熟考し、効果的に実施することで、基礎・基本的な学力の向上を図る。	
取組内容③ 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-3 学-4） 英語を活用する実践的な力と積極的な態度を育成する。	B
指標	
<ul style="list-style-type: none">令和5年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。令和5年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。C-NET（大阪市外国人英語指導員）の授業を、各学級あたり年間で15時間程度実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は46%で、昨年度より3ポイント下回っている。学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は55%で、昨年度より10ポイント上回っている。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">C-NET（大阪市外国人英語指導員）の授業は、1月末現在で3年生9時間、2年生9時間、1年生9時間実施した。今後も勤務日との兼ね合いで、年間15時間の実施は厳しい状況である。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">今後も、自分の考えを深めたり広げたりして、自ら発信できる生徒の育成のために、話し合う活動の充実をはかり、授業の改善を行っていく。また、C-NETの先生との授業を活用し、様々なアクティビティを取り入れることで、英語を運用する力を伸ばしていきたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（健康教育部）	進捗状況

<p>取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(学-9)</p> <p>生涯にわたり健康な心身を保持増進できるように、生活習慣や自己管理能力を身につけさせる。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導（保健だより・健康教室の開催など）を各学期に1回、定期的に行う。 ・ポスター掲示、プリントの配布などを通して、啓発活動を行う。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする。 	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート結果は、72%で目標を2%上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保健だより」等のプリント配布や、ポスター掲示を通して健康に関する啓発を行っている。 ・各教室においても、換気を行い消毒液も設置して健康的な生活の維持に努めている。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着きはじめ、気のゆるみを感じられる。今後も、手洗い、うがい、換気、消毒などの取り組みを継続して進めていく。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(学-10)</p> <p>望ましい食生活を身につけさせ、「食」への意識を向上させる。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の『食育だより』を通じて、生徒や保護者に「健康や体力を保持増進する力」を育成する。 ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を40%以上にする。 	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果は、45%で目標を5%上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食育だより」を月1回のペースで発行している。 ・1年生では、2学期に食育の内容で授業を行った。 ・保健の授業では、「食生活と健康」、「生活習慣病の予防」の単元で指導を行った。 ・給食時に、食事係に「今日の献立」を発表させるなどして「食」への意識を働きかけた。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、上記の内容を継続して行っていきたい。 ・給食時間は限られた時間ではあるが、食事の準備から片付けも含めて食事の時間を大切にできるように生徒に働きかけていく。 	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（人権道徳委員会）</p>	<p>進捗状況</p>

取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学一7)		B
基本的な道徳指導や人権尊重の姿勢について教職員が理解を深められるように、研修等の情報提供を行う。また、帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒についての情報共有や支援を適宜行い、違いを尊重し認め合える教育活動を展開していく。		
指標		
・人権教育実践交流会、道徳学習会の参加を呼び掛ける。また、人権道徳関係の研修案内や通信の配付、ポスター掲示、回覧等で情報提供を適宜行う。		
・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を60%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
・学校生活アンケートにおいて「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」と最も肯定的に答える教職員の割合は69%であった。		
【取組内容】について		
・人権道徳関係の研修案内や通信の配付、ポスター掲示、回覧等で情報提供を適宜行っている。また、今年度は人権教育実践交流会についての参加も呼び掛けていきたい。		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
・引き続き、道徳・人権学習教材の情報提供を積極的に行っていききたい。		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (校長経営戦略支援予算基本)		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(学一2)		B
「地域探訪」と銘打った班別フィールドワークを実施し、地域の歴史や伝統文化に触れながら郷土大阪を愛する心を育み、地域社会へ貢献する態度と意識を養う。また、事前活動や当日の活動では、地域の歴史や伝統文化について班で調べ、体験した内容を様々なスタイルを用いてプレゼンテーションすることで、総合的読解力の醸成による学力向上をねらう。		
指標		
・他者や社会との関係だけではなく自己と対話をしながら自らの考えを深め、地域という自分自身の基盤の中で行動していくきっかけとなる班別フィールドワークを実施する。		
・課題発見・解決能力や論理的思考力、コミュニケーション能力、多様な観点から考察するために、ICT機器を利用した調べ学習などを行う。そこにおいて、令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
・学校生活アンケート結果より		

<p>目標 71 R5 後 62 R5 前 57 R4 後 76 R4 前 84</p> <p>目標値を下回った。昨年度と比較しても下落している。しかしながら、「当てはまる」まで含めて比較した場合、R5 後は95となり、わずかではあるが、昨年度よりも向上している。</p> <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間評価の時点での分析と同じく、数値が伸び悩んだことは、ICT 活用が一般化しつつあることにより、より高度な活用方法をめざす動きから、肯定的回答全体は向上している一方、「もっとも」が選ばれにくくなっていると考え。ただ、「百問繚乱」の導入においても、研修の場面以外にも教職員間で相互に教え合う姿がみられており、ICT 活用への意識は高い。このように、ほとんどの教員が ICT 機器の活用に努める姿勢は得難く、また尊いものとする。
<p>次年度への改善点</p>
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も目標設定はこれまで同様に行い、「もっとも」の数値が肯定的回答全体の数値に近づくよう、取組内容を精査していく。ひとえに「もっとも」が選ばれやすくなるよう、現状の活用状況を高めていくことを主眼に置き、一人一台端末の具体的な活用と指導の方法に関する研究を進め、研修を行っていく。

大阪市立東中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標</p> <p>1. ICT の活用に関する目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策としてICTを活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を57%以上にする。 <p>2. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆとりの日を月1回程度設定し、この日の時間外勤務時間を可能な限り減らす。 4～11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準2）を満たす教員の割合を30%以上にする。 令和7年度の4月～11月までの8か月間の時間外勤務時間において、教員全体でLv4の割合を前年度より半減させるとともにLv2以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やす。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（ICT教育推進部）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】（市-1）</p> <p>個別最適な学びの推進に向けて、1人1台端末を活用した学習活動を実践する。あわせて、ICT機器の整備と効率的な運用を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	

<ul style="list-style-type: none">・学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めていると、最も肯定的な答えた教職員の割合は62%であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・夏休みのタブレット持ち帰りなど、昨年度に引き続き1人1台端末を活用した学習活動の実践には取り組んだが、タブレット端末の整備・修繕が滞り、各教科・各学年に迷惑をかけてしまうことになった。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・タブレット端末の不具合の対応について、ICT教育推進部のメンバーでしっかりと役割分担をして、タブレットの台数確保が常にできるように、体制を整える必要がある。	
取組内容②【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）（市-1） 情報活用能力の育成に向けて、情報を正しく安全に利用できるように情報モラル教育について取り組む。	B
指標 <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・インターネットやSNSを正しく安全に利用できると最も肯定的に答える生徒の割合は72%であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・道徳教材以外の場面で、情報モラル教育を行う機会を作れていない。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・情報モラル教育の機会を作ることができるよう、計画する。	
取組内容③【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）（市-1） 子どもの理解を深めるとともに、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応を実現するため、心の天気・いじめアンケートなどを活用する。	B
指標 <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ発見や、不登校などの生徒に対してICTを活用して支援している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・学校はいじめ・不登校などの防止対策としてICTを活用していると、最も肯定的に答える教職員の割合は69%であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・心の天気、いじめアンケートは行っているが、いじめ・不登校などの防止対策として効果的に実施できていないと感じている教職員が多数いると考えられる。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・心の天気、いじめアンケートや相談機能の活用と周知徹底を行い、生活指導部との密な連携が	

必要であると考える。		
取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】（市-1） 学校ホームページや保護者メールなどを活用し、東中学校の教育内容を広く保護者や地域に理解してもらう。	B	
指標 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどで知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 60%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができると、最も肯定的に答える保護者の割合は 55%であった。 【取組内容】について ・学校ホームページや保護者メールの活用は行えているが、さらに積極的にアピールしていくことが必要であると考えられる		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・目標達成に向けて、例えば、ホームページのレイアウト構成を変更するといった、新しい仕掛けが必要であると考えられる。		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（管理職）	進 捗 状 況	
取組内容①【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】（市-1） 学校ホームページや保護者メールなどを活用し、東中学校の教育内容を広く保護者や地域に理解してもらう。（再掲）	B	
指標 ・令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 57%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・学校生活アンケート結果より 目標 5 7 E5 後 5 5 R5 前 5 9 R4 後 5 5 R4 前 5 9 目標を達成できなかった。昨年度と同様、後期に減少し、同等の数値となった。肯定的回答全体を確認すると、後期は 9 5 %、前期は 9 6 %であった。これらの数値も昨年度と同等であった。 【取組内容】について ・「もっとも」に関する数値は達成できなかったが、教職員の協力により、ホームページは充実している。修学旅行や体育大会といった学校行事では、1 日当たり 10 件を超える記事がアップロードされた。休日の部活動においても、多くの記事をアップできている。各行事についても 1 件以上の記事が掲載されており、肯定的回答全体が 100%に迫る水準となっているのは、保護者の視点からすると、子どもの学校生活の様子が手に取るようにわかるのだと推察され、教職員の活動が保護者の安心や信頼につながっていると認識できる。		

次年度への改善点	
【目標設定】について	
・たとえ「できる範囲で記事をあげる」という意識であっても、多くの教職員が記事をあげようという気持ちでいるため、数多くの記事件数につながっている。これが「開かれた学校」への推進力となり、ホームページの充実と、保護者や地域の方々の学校に対する信頼感や安心感につながっているため、今後もこの活動を継続していく。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】(市-2)	A
教職員の働き方改革に関する目標を設定する。	
大阪市が策定した「学校園における働き方改革推進プラン」に則って、学校現場の負担軽減に向けた様々な取組を推進する。	
指標	
・4～11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して(基準2)を満たす教員の割合を32%以上にする。	
・令和5年度の4月～11月までの8か月間の時間外勤務時間において、教員全体でLv4の割合を前年度より半減させるとともにLv2以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やす。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・働き方改革プラン基準2は以下のような指標である。基準を満たす教員の割合が増加しないよう意識を高めていきたい。	
(基準2)	
ア 1年間の時間外勤務が720時間を超えない	
イ 1か月の時間外勤務が45時間を超える月を年間6回までとする	
ウ 1か月の時間外勤務が100時間を超えない	
エ 連続する複数月(2.3.4.5.6か月)のそれぞれの期間において、時間外勤務が平均80時間を超えない。	
※基準2とはアイウエオをすべて満たす教員	
・ゆとりの日…各月1回実施中	
・基準2を満たす教員… 目標32% 現状43.1%(29/51人)	
・LV4教員(のべ)…昨年度15人 R5 8人 ※参考 LV3 昨年度55人 R5 45人	
各月における減少人数の比較(LV3)	
…前年度(4～11月)と比較した。	
R4 減少月は4か月(R3と比較)	
R5 減少月は5か月(R4と比較)	
ゆとりの日は、各月1回実施できており、保持し続けたい。「基準2」教員は、前年度の約1.5倍に増加している。LV4教員は1/2にまで減少した。各月の減少人数の比較は昨年度を一か月上回った。	
【取組内容】について	
・今年度、超過勤務の多い教職員はこれまで同様減少傾向にあり、望ましい結果が出ている。一方で、個人に焦点を当てていくと、部活動での休日出勤が多い教員については、勤務時間が長い状態が続いている。次年度以降も複数顧問制の利点を生かし、休日を確保するよう促して	

いく。
次年度への改善点
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教職員の意識変革および、「百問繚乱」等、ICT 機器の利活用の効果があり、超過勤務時間数は昨年度より改善が続けている。部活動については、今後、各競技の特徴にも合わせながら、活動シーズンのオンとオフを意識づけながら、複数顧問制の利点を生かして、交互に休日をとるなどの工夫をし、改善を図り続ける。次年度の超過勤務時間数減少への目標は継続しながらも、単なる量的な改善に限らず、質的な改善も視野に入れたい。

大阪市立東中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【その他】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>1. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を51%にする。</p> <p>2. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を41%にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（教務部）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（学-1）</p> <p>学校目標や今日の課題を含めた諸課題に基づき、各種の校内研修会を実施する。よりよい教育方法の研究に努め、教育活動実践上の様々な課題について研修を深める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校目標や今日の課題を含めた諸課題に係る研修を学期に1回実施する。 令和5年度の学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を51%にする。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は54%で目標を3ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月には生活指導研修会、夏休みに入ってから救急救命講習、夏休み明けには総合的読解力についての研修を行った。毎月職員会議の際にはICT研修も行っている。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後のリモート授業を見据えたうえで、教育活動の諸課題解決に向けた実践力向上を目指し、研鑽を積むことの必要性の啓発や、よりニーズに合ったテーマを精選し、主体的な学びを構築できるよう、研修を定期的実施していく。 	
<p>取組内容②【基本的な方向5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（学-1）</p> <p>公開授業週間を設けて、他教科の授業見学も行い、全教員が互いの指導力向上をめざして研鑽を積む。</p> <hr/> <p>指標</p>	A

<ul style="list-style-type: none">・公開授業週間を年1回実施し、全教職員が行う。・公開授業の見学参加者数を全教職員、2回は公開及び見学するものとする。・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「教員間で授業方法についての意見交換し、指導内容・指導方法についての意見交換や話し合いを日常的に持ち、工夫と改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を全体の52%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は54%で目標を3ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「教員間で授業方法についての意見交換し、指導内容・指導方法についての意見交換や話し合いを日常的に持ち、工夫と改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は56%で、目標を4ポイント上回った。・9月から10月にかけて毎年公開授業週間を設けている。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・今後も研修を生かし、教員の指導力向上を目指す。	
取組内容③【基本的な方向3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(学-2)	B
小中の交流を深めるために、小中合同で研修会などを実施する。また、小中学校での相互授業参観や授業研究を実施することで、生活指導や学習指導方法の改善に役立てる。	
指標	
<ul style="list-style-type: none">・小中合同で研修会を実施する。・小中学校での相互授業参観や授業研究を実施する。・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を41%にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学校生活アンケートにおいて「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は56%で、目標を15ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・小中合同の研修会は学校間の調整が難しく実施できていない。・小中連携の一環として、小学校6年生に向けてのリモート授業を行った。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・新たな小中連携の取り組みについて検討、精査を行う必要がある。	